



Contents

- 🌲 ご挨拶
- 🌲 水源林造成事業
全国に広がる潤いのネットワーク
- 🌲 被災森林の復旧への取り組み
- 🌲 出張教室の取り組み
- 🌲 森林整備センターの広報誌を創刊します



水源林

季刊

Forest Management Center

創刊号 2021.3

森林整備センター広報誌を発行します



国立研究開発法人
森林研究・整備機構
理事長

浅野(中静) 透

皆さまには、平素より水源林造成事業に特段のご理解とご協力をいただいております。深く御礼申し上げます。昨年4月に理事長を拝命した浅野透(研究者としては、旧姓の中静を使用)でございます。

森林は、木材生産の場としてだけでなく、国土保全、水源^{かんよう}涵養、保健休養などの多面的機能により私たちの生活を支えています。したがって、国連で提唱されているSDGsにおいても、目標15(陸域生態系の持続可能な利用)だけでなく、他の多くの目標も下支えしています。さらに、最近の新型コロナウイルス後の社会といった議論でも、森林の重要性が指摘されています。

当機構は、森林・林業・林産業・育種に関わる研究開発(森林総合研究所)と、水源林造成(森林整備センター)、および森林保険業務(森林保険センター)をつうじて、こうした社会の森林への要請に対して、幅広い貢献の可能な組織として、誇りをもってその役割を果たしたいと考えています。

このたび、森林整備センターが果たす役割・貢献について広く皆様に知っていただくため、「森林整備センター広報誌」を発行させていただきました。今後、水源林造成の成果、わかりやすい業務手続き・制度、イベントの紹介、日常の取組紹介などの情報を発信していきたいと思っておりますので、お楽しみにしていただければと思います。

森林整備センターでは、このところ事業量も増えておりますし、災害などに対する対応も重要になる一方で、シカ害なども問題となっています。令和3年度から始まる機構の新しい中長期計画では、こうした課題に対して、研究開発や保険業務と連携を強めながら対処してゆく所存です。引き続き、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。皆様方のご健勝とご発展を祈念しつつ、ご挨拶とさせていただきます。

「季刊 水源林」創刊のご挨拶



国立研究開発法人
森林研究・整備機構
森林整備センター所長

猪島 康浩

「季刊 水源林」の創刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

皆様には、日頃より、森林整備センター事業につきまして、格別のご理解、ご支援を承っておりますことに厚く御礼申し上げます。

森林整備センターは、洪水や濁水を和らげ、安定した水の流れを保つ「緑のダム」である「水源林」を、森林所有者・造林者の方々とともに造成・整備し、森林の持つ多面的機能の持続的発揮や林業・木材産業の振興等に貢献することを使命としています。

この達成に向けて、私たちは全国の奥地山間部の水源地域において、地域の皆様方のご理解とご協力をいただきながら水源林の造成に取り組んできました。

これまでにセンターが育ててきた水源林は約48万ヘクタールに及び、これらの森林は水源涵養機能^{かんよう}の発揮はもとより、木材の生産、土砂の流出防止、地球温暖化の緩和など多様な機能を発揮するほか、事業を安定的に実施することによる山村地域の振興などにも重要な役割を果たしてきました。

特に、近年、大きな自然災害が頻発する中で、防災・減災、国土強靱化の観点から、水源林の整備・保全に対する期待が一層高まってきているほか、林業の成長産業化の実現などにも寄与していくことが期待されています。

こうした様々な期待に応え、水源林造成事業を一層効果的・効率的に推進していくためには、センターの役割や取組についてより多くの皆様に知っていただくと同時に、皆様から多様なご意見やご要望をいただき、これらを私どもセンターの事業等に反映させていくことが重要と考えています。

このため、センターと国民の皆様方とを双方向でつなぐコミュニケーションのツールとすべく、今般、第5期中長期計画のスタートに併せて、新たに「季刊 水源林」を発刊することとしました。

この広報誌では、水源林とはどのような森林か、あるいは、森林整備センターがどのような業務を行っているかを知っていただくために、水源林の最新情報や地域の活動、職員による旬なトピックスなどをお伝えするとともに、関係者の皆様方のご意見等も紹介しながら、各地に整備された水源林をはじめ、センターや各整備局・水源林整備事務所なども身近に感じていただければ幸いです。

我々も皆様の信頼と期待に応えられるよう引き続き努力して参りますので、今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

全国に広がる潤いの



二ノ倉ダムと水源林造成事業地
(青森県新郷村)

キレイな水が身近にある、皆さんこれが当たり前だと思っていないですか？それには水源林と呼ばれる森が深く関係しています。水源林は雨や雪を豊かな水へと育みます。森林整備センターは分収造林契約に基づいて土地所有者、造林者と協力し水源林を造成しています。針広混交林や育成複層林等公益的機能が高度に発揮される森林を造成しています。



仙北市田沢「宝仙湖」水源の森
(秋田県仙北市)



坂根ダムと水源林造成事業地
(島根県奥出雲町)



島根県奥出雲町ではダムに貯えられる水の涵養^{かんよう}を助け、湧き出る天然水の上流域にも水源林造成地が広がっています。

青森県新郷村の水源林造成事業地は洪水調節の防災ダムのはたらきを助けています。



南あわじ市の水源の森
(兵庫県)



ネットワーク

水源の森を作り守る、私たち森林整備センターは国民生活に不可欠な水の安定供給や国民の生命・財産を守るため水源地域で水を育む森林を再生しています。愛知県岡崎市の額田町、鹿児島県さつま町はダムの水源として地域の水源涵養^{かんよう}の役割を果たしています。昭和に植栽され伐期が近づいた森は少しずつ伐採され木材市場へ出荷されています。



額田町水源の森
(愛知県岡崎市)



薩摩地域の水を支える鶴田ダム(大鶴湖)
(鹿児島県さつま町)



大井川と水源林造成事業地
(静岡県川根本町)

ダムの上流域などの水源の涵養^{かんよう}上重要な奥地水源地域の民有林保安林のうち、土地所有者自身による森林整備が困難な木の生えていない荒れ地^{*}で、公的なセーフティネットとして早期に森林を造成し、整備する事業です。森林開発公団(現在は森林研究・整備機構 森林整備センターが承継)により昭和36年(1961年)に開始され、これまで、全国で約48万ha、東京都と神奈川県合計面積に相当する水源林を造成してきました。再生した森林「水源林」は、国民の皆様の生活に不可欠な水源の涵養^{かんよう}や土砂流出・崩壊の防止を通じて「緑のダム」としての機能を確保することで、国土保全等に大きく役立っています。

^{*}水源の涵養^{かんよう}機能が劣っている無立木地、散生地、粗悪林相地など



水を貯える金山ダム
(北海道南富良野町)

もっと知りたい方は

森林整備センターホームページ
「水源林50選」をご覧ください

https://www.green.go.jp/zorin_jigyo/jirei50sen/

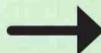


被災森林の復旧への取り組み

▼群馬県桐生市 森林火災



【火災発生時 H26年4月】



【復旧後 H29年撮影】

森林整備センターは、近年の多発する自然災害等の被災地において水源林造成事業によって対応が可能な箇所については、地元の要請等を踏まえつつ、早期に公益的機能を回復させるため、積極的に復旧の取組に参画することとしています。その一例として平成26年4月に群馬県桐生市で発生した大規模な森林火災跡地（約260ha）において、地元桐生市から水源林造成事業による森林再生の要請があったことを受け、被災した森林（90ha）を対象に、平成27年度に新規契約を締結し、平成28年度から令和元年度にかけて51haの植栽を行いました。引き続き令和2年度末までに60haの植栽を実施する予定です。



桐生市の山火事跡地の被害状況



桐生市による被害木の整理状況



山火事跡地における植栽の様子



桐生市の山火事後に発生した林内の土砂流出の様子

私たちが生きていくうえで欠かせない水。

森林整備センターでは水源林造成事業として森林を育て、水を育てています。

水が育まれる森林の仕組みや豊かな森林を守り育てていくにはどうしたらいいか、私たちといっしょに考えてみませんか。

「出張教室」では、全国の皆さまの街や教室に森林整備センター職員が出向き、森林が果たす役割・重要性についてお話しし、水源林の大切さを理解していただくとともに、私たちの取り組みなどへの意見を伺うことを目的としています。

学校の授業の一環や、市民サークルの勉強会等でぜひご活用ください。



出張教室

内容の一例

林業事業者等 及び 一般向け

森林と水との関係や森林が果たしていく役割などについて解説します。専門的な内容については研究者の話を直接聞くことも可能です。

- ・ 森林と水との関係、水源林の効果
- ・ 森林整備の技術について
- ・ 水源林造成事業とはどんな事業か

高校生・ 大学生向け

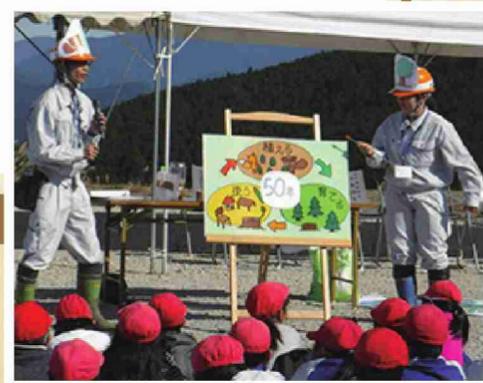
学術的な話題のほか、職業としての林業、森林整備についてもお話します。

- ・ 森林の公益的機能と林業、木材産業について
- ・ 森林整備センターの仕事について

小学生・ 中学生向け

紙芝居など子どもたちにも親しみやすいツールを用いて森林を身近に感じられる授業を行います。

- ・ 森林とわたしたちの生活
- ・ 水はどこからくるの？



もっと知りたい方は

森林整備センターホームページ
「水源林『出張教室』のご案内」をご覧ください

https://www.green.go.jp/zorin_jigyo/annai/



広報誌がめざすもの

森林整備センターは、ダム上流地域などの奥地山間部で水源林を造成・整備する「水源林造成事業」を推進し、それを通じて森林の多面的機能の持続的発揮、林業・木材産業の振興及び木材利用の促進等に貢献することを使命としています。本誌は、こうした森林整備センターの使命や水源林造成事業の内容、取り組み等について、関係者の皆さまにより広く知っていただくとともに、センターと皆さまとの間を双方向に繋ぐコミュニケーションの一助となることをめざします。



広報誌の主な内容

本誌では、森林整備センターの組織や管内の森林等のご案内、水源林造成事業の推進に関わる制度等のご紹介をはじめ、多様な森林づくり、獣害や山火事の防止、労働災害の防止などの水源林造成事業の取り組み、さらにはこれらを通じた効率的で低コストな森林整備手法や技術の開発と地域の皆さまへの普及、近年頻発する自然災害への対応などについて、図表や写真・イラストを活用し、関係者の皆さまの声も紹介しながら分かりやすくお伝えしていきます。



ご意見・ご感想をお待ちしています

森林整備センターや水源林造成事業について、森林所有者や造林者（林業事業者）、自治体等の事業関係者の皆さま、林業関係団体、関係機関の皆さま、その他ご関心をお持ちの皆さまから、ご意見、ご感想をお待ちしております。

また、本誌の記事に対するご意見・ご感想や「こんな記事が読みたい」といったご要望も歓迎いたします。



発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター

〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町 66-2 興和川崎西ロビル 11 階

電話：044-543-2500(代表) FAX：044-533-7277

Mail：info@green.go.jp HP：https://www.green.go.jp/

